

答申 持続可能なまちづくりに向けた「つながり」づくりの活性化について(概要)

令和3・4年度掛川市社会教育委員会

1 なぜ「つながり」に注目するのか？

地域では人と人のゆるやかな「つながり」が大切だと言われ、人と人のちょうどよい関係が保たれてきた。祭りや健全育成活動、防災活動などの取組を通じて、「つながり」が構築されてきた。

しかし、今回の新型コロナウイルスへの対応を機に、「つながり」が大きく変わりつつある(人と人、人と環境、人と組織、今を生きる人と過去の人)。「つながり」の多様性といえるかもしれない。

コロナ禍でたち切れ寸前となっている、人と人の「つながり」は、価値が高まっているのではないか。

2 現状と課題

(1) 社会環境の著しい変化

核家族化等により、地域における人と人とのつながりの希薄化が進行している。

(2) 社会教育の環境変化

学校と地域が連携した学びへの変化、地域社会のつながり衰退の現状、災害に備えた日常的な絆づくりの必要性等、地域の交流促進と活性化が期待されている。

(3) 子供たちの環境変化

子供たちの育成、学校運営の充実のためにも、地域との連携・協働は大切。

(4) 新型コロナウイルス感染症による影響

感染拡大が学習活動に大きな影響を与え、会合や恒例行事が多々中止になった。ICT技術で遠隔地とつながる取組は広まっているが、全般的に生活満足度が低下している。

3 活性化のポイント(答申の柱)

(1) 人とのつながりの価値を再確認する

- ①ストレスを軽減できる ②キャリアの見通しが持ちやすくなる ③新たな挑戦を支えられる
- ④自己有用感アップにつながる ⑤生命・身体の安全安心

(2) つながりをつくることで、自分が楽しむ。大人が楽しむ、子供も楽しむ

(3) 若者・女性を含めた多世代による地域のつながり構築が大切

(4) ウイズコロナとアフターコロナ。ウィズコロナ対応策も今は重要

(5) つながり格差を解消するために、個人と政策にできることがある

4 活性化の方策

(1) 地域への期待

世代を超えたつながりを、意図的につくっていく必要。「楽しむ」の精神も必要で、そこから継続と新たな取組が生まれる。

若者の声や女性からの視点も大切。新たな企画等は、地域組織での丁寧な議論を経て、実現に向かうことが大切。そこから家庭が地域とつながり、地域への貢献も促される。

また、学校部活動を地域部活へ移行していくには、地域の協力が必要。

(2) 学校・園への期待

中学校区学園化構想(市民総ぐるみの教育)の推進が必要。地域のつながりをつくる基盤であり、子供にとっては、自己有用感が育まれ学習意欲も喚起される。地域の担い手としての自覚が高まることも期待される。保護者にとっては、保護者同士や地域の方々とのつながりが構築でき、家庭教育支援にもつながる。

また、「かけがわ家庭の学びランドデザイン」の地域への広報、成長時期に合わせた積極的な活用を期待。

(3) 行政への期待

地域で活躍している方々に、地域格差が生まれることの無いように、情報提供等の支援が必要。子育ての切れ目のない支援と関係機関の連携、防災活動への活動支援等も期待。

持続可能なまちづくりに向けた 「つながり」づくりの活性化

あなたの周りにある「つながり」



地域



園・学校



家庭



友人

あなたの大切にしたい「つながり」はなんですか？

今こそ「つながり」を大切にしませんか？



「つながり」活性化のポイント

- (1) 人との「つながり」の価値を再認識する
- (2) つながりをつくることで、自分が楽しむ。子供も楽しむ
- (3) 若者・女性を含めた多世代による地域のつながり構築が大切
- (4) ウイズコロナへの対応策も今は重要
- (5) つながり格差を解消するために、個人と政策にできることがある

1本の花も美しいけれど、束ねた花はもっと美しい